

式辞

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学を卒業される皆様、ご卒業おめでとうございます。本年度皆様が手にされる学位記とその努力に我々教職員を代表して心よりお祝いを申し上げます。さらに、卒業を迎えることのできた皆様の大学生活に多大なご支援とご助力を頂いたご家族の皆様方に対して敬意を表し、最大の感謝を申し上げますと共に、心よりお喜びを申し上げます。また、様々な場面でご支援を頂いた同窓会の皆様や本学ゆかりの皆様方にも厚く御礼申し上げます。

本日、松山東雲女子大学93名、松山東雲短期大学257名の皆様方が学位記を授与され令和最初の卒業生として桑原キャンパスを巣立つこととなりました。皆様方は本日に至るまで日夜、努力と勉学を重ね、自らを育て上げてきたことと思います。そこでは多くのご苦労や仲間との感動があったのではないかと推測いたします。流した汗や涙は東雲での代え難い思い出の一頁となるでしょう。卒業を迎える皆様方の青春の思い出は桑原キャンパスの様々な場所や日々足を運んだ教室と一緒に皆様

の貴重なメモリーのひとつとして心の中にちりばめられている事でしょう。

卒業後も社会人の一員として仕事や自分自身の生活の中で立ち止まった時、この東雲を思い出して下さい。東雲で学んだことは単に講義で得た知識やゼミでの熱い討論だけではないはずです。キャンパスから外に飛び出し、社会の様々な人々と関わりの中から、新たな視点や相反する考え方にも気づいた方がいるかもしれません。幼少期から小学校・中学校・高校そして東雲での学生時代のその殆どが同世代、同じ年齢層の友人との関わりが圧倒的に多かったかと思われます。これはある面では非常に閉鎖的な集団で、多くを語らずともお互いに共通した時代と社会環境で生活をしていることにより、お互いを分かり合うことができやすいグループであるといえます。私はそのことを否定するわけではありません。しかし、一昔前、地域社会があるいは村が子どもを育てていた時代には子どもたちは異年齢の集団として遊びをとおして仲間作りをし、最初の小さな子どもの社会での立ち位置を経験的に身につけてきました。そして、さらに地域社会の行事では地域社会の一員としての子どもの役割が

日常的に要求されその村の長老や大人たちから社会的に認められるべく、最善を尽くすことで自分自身の存在を肯定的に見つめることのできた社会が過去にはありました。しかし近年、核家族化が主流となる社会で子どもの生活する環境は同一の年齢構成によるクラス構成が一般的で、幼児の段階から異年齢の子どもや青年・成人と日常的に関わる機会が少なくなってきました。

人間は社会性の非常に強い動物です。決して一人だけで社会と関わらず、独立して生きていくことはできません。地域社会で生活をしながら家族や職場の同僚に自分自身の主張や存在を表現します。これはマズローの言う承認欲求の充足と考えることもできます。マズローはより下位の欲求が充足されなければそれより上位の欲求の充足実現には及ばないとも言っています。つまり、卒業後は地域社会や就職した職場での承認欲求を充足することでさらに次の上位にある自己実現が可能になると考えます。新しい対人関係を築く中で、時には不本意でも相手の意図を理解しようとしてお互いに折り合いをつけることもあるかもしれません。しかし、お互いの譲り合う姿勢が初めて平

和でしかも安全で安心できる地域社会が実現しその生活が営まれると考えます。皆さんはこの東雲の学生生活でキャンパス外での様々な活動、実習やインターンシップを含め、アルバイトやボランティア活動さらには近隣に住む人生の先輩方との触れ合いの中で自分自身を積極的にその環境に適応させていく努力と営みがあったと思います。そのような場は大学で得た知識や技術を自分自身のより良い生活の構築と柔軟な対応ができる心の糧となり、皆さんのまろやかな対人関係能力を作り上げるための実践の場であったともいえるでしょう。

自らの人生を自らの手で設計することについて、スタンフォード大学の脳外科医のジェームズ・ドウティは「人生の扉を開く最強のマジック」(株)プレジデント社)という著書の中で「」を頭文字とした単語を示し、心を開く十か条をリストアップしています。その十個のことは卒業する皆様にお伝えしたいと思います。それは

C: Compassion (共感) D: Dignity (尊厳) E: Equanimity

(平静) F: Forgiveness (宥み) G: Gratitude (感謝) H:

Humility (謙虚) I: Integrity (誠実) J: Justice (正義) K:

Kindness (思いやり) L: Love (無償の愛)

それぞれの単語についてジェームズ・ドウティのことを借りながら私なりの解釈を付け加えたいと思います。

Compassion: 共感。他人の苦しみに気づき、その苦しみを和らげようとする意識です。そして他人に共感するには自分自身に共感する必要があります。これは自分自身に優しくできなければ愛と優しさを他人に提供することはできません。つまり、自分自身を大切にこそ初めて共感ができると考えます。自分自身を大切にしてください。

Dignity: 誰もがそれぞれの尊厳を認められる必要があります。幸せは他人も自分自身にとっても共通の望みです。他人も自分自身と共通の幸せへの望みがある事を理解することで我々の心は繋がっていきます。自分だけの幸せは在り得ません。

Equanimity: 人生の中で良い事も悪いことも長くは続きま

せん。悪いことはいつまでも続くことはありません。同様に良い事も永遠に続くことはありません。人は往々にして良い事だけが継続することを望みます。大切なのはバランスです。心を一定に保つこと、常に平静であることで些細な心の動きが際立って見えます。自分自身を真摯に見つめることができます。

Forgiveness:ゆるしは他人に対する最高の贈り物であると同時に自分自身にとっても最高の贈り物です。他人に怒りや憎しみの感情をもつことはいつしかブーメランとなるでしょう。他人を許しその全てをありのまま肯定することで未来が開けます。

Gratitude:自分自身の置かれた劣悪な環境や対人的なトラブルも感謝という面から考えて見る必要があります。他人と比較して自分自身を卑下したり、自分自身の無能さを嘆いたりするよりも、そこに開拓すべき道がある事に気づくことで苦境も感謝として捉えることができます。逆境は与えられた開発すべき課題と捉えると次なる道が見えてきます。

Humility: 謙虚、人は誰もが自分自身の価値を他人に認めさせたいと願います。しかし、視点を変えると他人との違いを認めさせることはその社会から切り離されることであって孤立してしまいます。自分自身も他人もありのままに認める謙虚さが他人から受け入れられます。

Integrity: 最初から不誠実を求める人はいません。誰もが心の中では自分自身が誠実であることを求めます。しかし、誠実さは一度妥協すると二度目、三度目となることにより簡単に妥協し、結果として不誠実な行いとなります。誠実さに妥協はありません。

Justice: 正義は全ての人々の願望です。そして、その正義は弱い立場にある人々に向けられることで自分自身の人生を豊かにします。松山女学校の第三代校長のホイテ先生が辞任される際にその母体であったアメリカンボードは廃校寸前の女学校を経済的に援助し、「無私の奉仕の精神」を尊い遺産として残し日本人の財団法人にそっくり寄付しました。

Kindness: 思いやりは見返りを求めず他人が大切にされることを望みます。親切な行いはその受け手だけでなく送り手にも好影響を与えます。そして個人のほんの些細な思いやりは静かにそして確実に人から人へと伝搬していきます。

Love: どんなにコンピュータ技術が進歩しても、人工知能としてのプログラムが開発されても全ての美德を含む愛には及びません。愛こそが人を人間らしさの源泉といえます。

私自身これらの十のことばが実践できているかと問われれば未だ道半ばに達せずと答えるしかありません。

ジエームズ・ドウティは助けを必要とする人を助け励ますと中脳水道周囲灰白質の領域活動が活発となり、他者に何かを分け与えると、脳の快樂と報酬系が刺激され、何かをもらった時よりも大きな快樂が得られるとも言っています。これは自己犠牲を求めるものではなく、共感の項目で述べたように自分自身を大切にすることによる慈愛の提供であるといえます。そしてさらに、チャールズ・ダーウィンの進化論は情け容赦のない最強

の者が生き残ると解釈されやすいですが、本当は適者生存というのは長期的な種の保存のために一番親切で一番協調性のあ
る者が生き残るというという意味です。我々人間は協力し、子
どもを育て、全員の利益のためにもに繁栄するように進化を
遂げてきました。皆様は卒業後、それぞれの置かれた立場で自
分とは異なる価値観あるいは自分自身では未経験の視点をも
つ他者を尊重しつつ、自分自身を大切にしてお互いが歩み寄り、
折り合いをつけながら、この東雲で学んだことをさらに大きく
膨らませて欲しいと思います。そうすることが東雲のかけがえ
のない財産となります。

東雲はその前身の松山女学校時代から数えて今年で一三三
年になります。その間、社会に求められる人材育成としての女
子教育を頑なに守り続けてきました。そして、これからも開学
当時の理念は連綿と語り続けられていくことでしょう。そして、
東雲を卒業される皆さんについても卒業後、社会から必要とさ
れる人材として自らをブラッシュアップしていくことを強く望み
ます。

最後に本日卒業し東雲を巣立つ皆さんの健康と皆さんが自分自身の人生を切り拓いていくことを祈念して祝辞に代えさせていただきます。

本日はご卒業まことにおめでとうございます。

二〇二〇年三月十三日

松山東雲女子大学

松山東雲短期大学

学長 高橋 圭三